

《 一般会員発表1 》



ストッキネットを使用した 鎖骨骨折の固定法

(社)東京都柔道接骨師会
足立支部 森山 奉真

【はじめに】

鎖骨骨折の保存的治療法は、200前後はあるとの事です。本日報告する固定法は、私が日頃親しくして頂いている、整形外科医院院長より御指導頂き、10年近く当院でも実行しているものであり、大変優れた点が多いので、その固定法及び、その症例を発表させていただきます。

【方法】

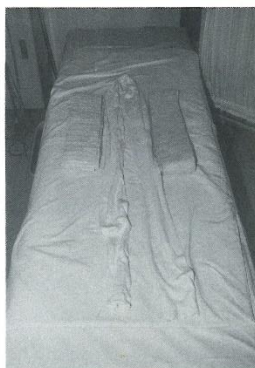
(S-1) 材料としては、ギブス用下巻き包帯に使用するストッキネット及び、ブルーラップを使用します。



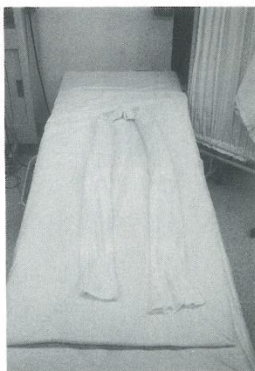
S-1

(S-2) 成人に於いては、ストッキネット4裂を210cm位に切り、ブルーラップ3裂を45cm位に広げます。

(S-3) ストッキネットの中心が頸部

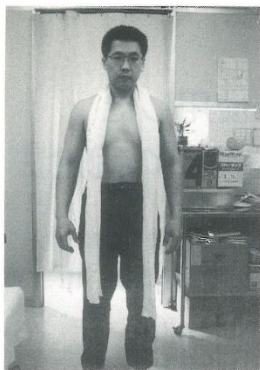


S-2



S-3

にくるように少し空け、ブルーラップをストッキネットの中に入れます。



S-4



S-5



S-6



S-7

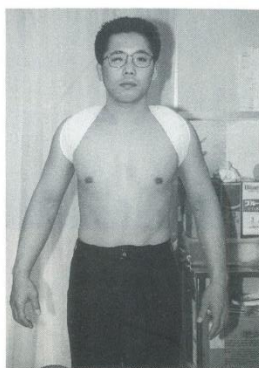
(S-4) この様に頸部を中心に、ストックネットの両端が膝部に届くようにかかります。

(S-5) 両端を背部で結びます。

(S-6) スtockネットの片端を頸部から入れます。この時、中に入れたブルーラップは肩甲骨の上角から下角にかけて肘窩を通る様になります。

(S-7) 患者の胸郭を大きく広げて肩が挙上する様に結びます。この部分の結び目にて締め具合を調整します。

(S-8) 正面像です。患者が上肢の



S-8

ビレを訴えた場合は、より一層の胸郭の拡大を指導するか、背部結び目の部分で強弱を調整します。

(S-9) 三角巾を固定します。

(S-10) 三角巾の上から更に、包帯固定をします。



S-9



S-10

以上がストックネットを使用した、鎖骨骨折の固定法であります。

【症例】

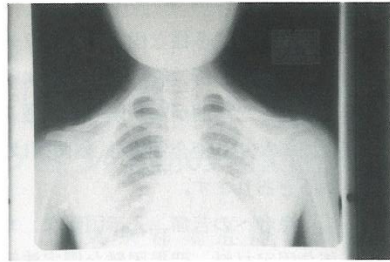
当院にて、本固定法を使用した症例を報告致します。

〈症例1〉(S-11)

患者 5才男児

受傷日 平成4年4月4日

左右鎖骨骨折の珍しい症例です。本固定法で3週間固定し、治癒した症例です。



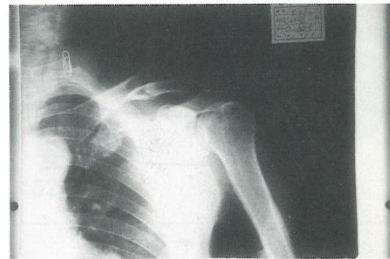
S-11

〈症例2〉(S-12)

患者 52才男性

受傷日 平成9年7月3日

左鎖骨中外3分の1部の定型的骨折です。本固定法で6週間固定し、骨癒合した症例です。



S-12

【結果】

過去10年間に外端部の骨折を除く、11例の鎖骨骨折に本固定法を行い、いずれも骨片転位の残存も少なく良好な経過を記録しました。

特徴としては、本固定法を施行することにより、骨片の転位は整復の傾向が生じ、比較的良好的な状態での早期骨癒合が得られた事であります。

【考察】

鎖骨骨折は、多種多様な固定法がありますが、デパルマの骨折、脱臼の管理によると、骨片の大きな離開がない限り、普通、治療法に関係なく骨癒合が起き、偽関節は、まれであるとあります。

しかし、患者への苦痛、入手困難な、または高価な固定材料、習得困難な固定法等を考えると、本固定法は比較的、患者の苦痛も少なく、安価な材料で容易に入手出来、習得も容易であります。

固定力に於いても、患者の年令・体型に関係なく胸郭の拡大、持続的牽引によって整復位を保持できるものであります。多少の骨片の離開があっても、自然整復の傾向

が見られ、早期の骨癒合が可能です。

【まとめ】

- ① 持続的牽引によって整復位を保持できる。
- ② 患部を毎日、来院毎に観察でき、固の締め直しができる。
- ③ 安価な材料で容易に習得できる。
- ④ 患者の苦痛が比較的少ない。
- ⑤ 患者の年令・体型に関係なく固定できる。
- ⑥ 女性に肌着の上から固定できる

【文献】

図説 骨折脱臼の管理、デパルマ著
第38回東京都委託柔道整復師講習会講義録